

# イスチユアリ

# Estuary 040

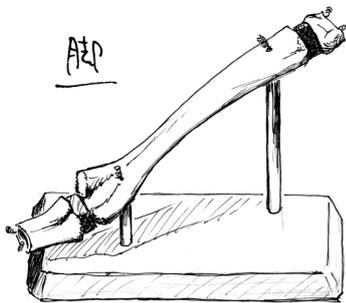
～いしかり砂丘の風資料館だより～

## 展示資料のひみつ

リターンズ

資料館の受付カウンターで、お客様を出迎えている小さな白い骨一。東南アジア原産のキジ科の鳥類、セキショクヤケイ。その家畜種の前肢と後肢（つまり手羽と脚）の骨格標本です。その鳥とは、学名 *Gallus gallus var. domesticus*、和名ニワトリ。

ほとんどの人はフライドチキンを食べたことがあるでしょう。超有名チェーン店「K」でチキンを何ピースか買うと、形がいろいろあることに気づきますよね？ K店では1羽のチキン、つまりニワトリを、頭・首と脚先を除いて、胸や手羽、脚など5部位9ピースにカットしています。店頭で5種類のどれが出されるかは、店員のみぞ知る。



9/4(土)、体験講座  
『フライドチキン骨格標本  
をつくる』  
を主催!!  
P.4で見よ。

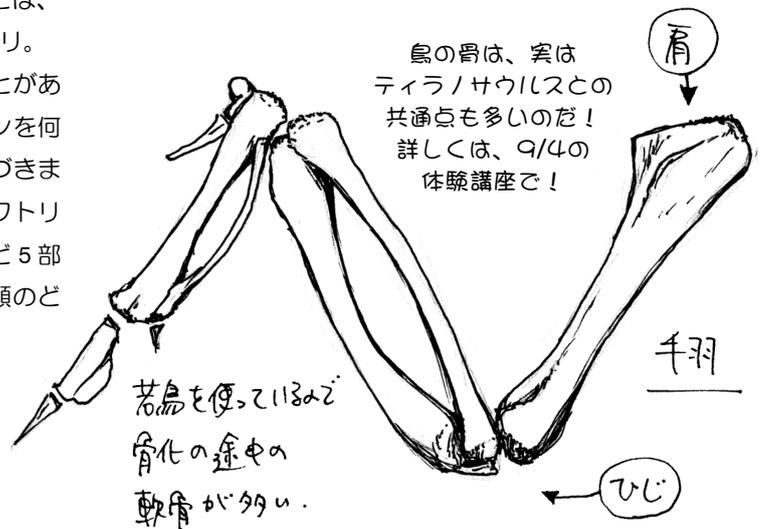
### ■ニワトリ (部分骨格)

*Gallus gallus var. domesticus*

キジ目キジ科

採集地 フライドチキン店 (購入)

全長 まっすぐに伸ばすと20cm



さて、肉をきれいに食べると、部位ごとに違った5種類の骨が残ります。でも捨ててはいけません！ チキンの骨といえども、よ〜く観察するといろんなことがわかるのです。たとえば手羽。鳥の翼、人間でいえば腕にあたります。かたや空を飛ぶために羽ばたき、かたや指先で器用に道具を操ります。でも実は骨の基本的な構成は同じ。鳥にもちゃんと指もあります。鳥も人間も先祖は共通で、5本指をもつ動物から進化したからです。

このように、ありふれた食物からも生命の歴史を読み取ることができるのです。

(志賀健司 しがけんじ)

先日、某大学の「土器の体験講座」を受ける機会に恵まれました。講座内容の詳細を知らないほうが楽しめると考え、事前に問合せもせず申し込みをし、そして当日。担当講師の方から“土器破片の断面図を描き拓本（紙の上から墨をうち紋様を出したもの）をとる”という説明を受けたとたん、私の心臓はドッキドキ、手はブルブル、頭の中は真っ白な状態へとなくなりました。実は20年位前に一度だけ、遺跡発掘のアルバイトで剥片（はくへん）石器の断面図を描く作業をさせてもらったことがあります。このときの私は、道具を使いながら紙の上に石器からわかる情報を正確に描くということが、どうしてもうまくできませんでした。その苦しい体験が瞬時に思い出されたのです。

担当講師の方の懇切丁寧なご指導のもと、他の受講生の皆さんが与えられた道具を見事に使いこなし、着々と断面図を描き拓本をとっていらっしゃる中、やっとの思いで作業についてい

「土器の体験講座」でドッキドキ

き、講座終了時には喉がカラカラでした。皆さんの“ふだん体験する機会のないことができてよかった”という声を聞きながら、苦手なことでも楽しめる心のゆとりが私には必要だと実感しました。それでも、学ぶという空間にいた充実感を得ることができましたし、対象となるモノをよく見る目の大切さも改めて感じました。

さて資料館では、7月17・24日、9月（日にち未定）にかけて体験講座「縄文土器復元講座」を行います。一連の作業を通していきながら気分は縄文時代に!? 講座参加の皆さんには、私と違ったドッキドキを味わっていただけたいと思っています。

（倉 雅子 くらまさこ）

※体験講座に合わせて、テーマ展「縄文土器をつくる」を開催中です（8/1まで）。実物の縄文土器の破片を手にすることもできます。ぜひ、ご覧ください。

## コハクを探せ！

コハク（琥珀）とは木の樹脂の成分が長い年月をかけて変化したもので、昔から宝石として利用されています。石狩浜には様々なモノが漂着しますが、コハクもその中の一つです。

といっても、石狩浜で拾えるコハクは数mm～1cm程度の大きさのものが殆どです。数ミリの大きさのコハクを広い砂浜から探す訳ですから、見つかるかどうかは運しだい。ただ、砂浜のどこにでも漂着している訳ではありません。コハクの比重はプラスチックに近いので、プラスチックが漂着しているライン上にコハクも漂着している“可能性”があります。あくまでも“可能性”なので必ず見つかる訳ではありません…。

私もときどき浜へ行ってコハクを探しているものの、未だに拾えたことがありません。なかなか見つからないぶん、見つけた時は感動すると思います。これから夏本

番となり海水浴シーズンが到来しますが、石狩浜へお越しの際にちょっとした宝探しを楽しんでみてはいかがでしょうか？

（千田寛之 ちだひろゆき）



## 琥珀の季節

石狩浜、聚富（しっぷ）・望来（もうらい）海岸には琥珀が漂着します。色は赤、黄色、褐色などです。残念ながら大きくても指先大で質、量ともそれほどではありませんので、利用されることはありません。海岸にあがるので「海琥珀」といっても良いのですが、実はこの琥珀、海底に鮎床（こうしょう）があって打ち寄せられるものではありません。

石狩では琥珀のほか石炭も漂着しますが、注意して観察すると石炭の塊のなかに琥珀が含まれているものがあります。厚田村史などを見ると、聚富・望来海岸ではかつては石炭が大量に打ちあがり、石狩湾内に炭田があるのではと考えられたこともあったようです。しかし調べ

てみるとその事実はないようで、石炭は石狩川上流の三笠や夕張などの支流から運ばれてきたと考えられます。そうすると石狩海岸に漂着する琥珀も上流の炭田が産地とみて良いでしょう。学芸員のSによると今年は「琥珀漂着注意報」の年だといい、例年になく漂着が多いそうです。あなたも琥珀が採取できるかもしれません。

なお石狩市の琥珀について明治22年に横山荘三郎が地学雑誌に記していて、存在や採取の記録は安政4年5月まで遡ります。

（石橋孝夫 いしばしたかお）

岡村 聡ほか2005「石狩厚田海岸に打ち寄せる石炭の起源」環境教育第8巻第1号

横山荘三郎1889「北海道の琥珀及建築材」地学雑誌1巻第3号

玉虫左太夫1992『蝦夷地・樺太巡見日誌 入北記』（解説稲葉一郎）

## 7月～9月の講座・展示①

テーマ展

### 縄文土器をつくる

8月  
開催

縄文土器とは何か、土器はどこにあるのか。素朴な疑問を縄文土器の復元に取り組む花川南の宮野裕子さんの土器をつかって解説します。

■期間 6月23日（水）～8月1日（日）

■場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料（大人300円、中学生以下無料）が必要です。

テーマ展

### 昭和なおもちゃ

8月  
開催

昔なつかしいレトロなおもちゃ、人形やお面など、花川の桐澤秀人さんの数多くのコレクションを公開！

■期間 8月8日（日）～9月12日（日）

■場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料（大人300円、中学生以下無料）が必要です。

体験講座

### 縄文土器復元講座

7月  
開催

縄文土器の復元にチャレンジしませんか。2回の講座で初心者でもみっちりのご指導します。3回目に野焼きを行ないます。

■日時 ①7月17日（土）②24日（土）（製作）  
09:30～16:00頃

③野焼き 9月（後日連絡します）

■場所 石狩市公民館1階 陶芸室

■費用 300円（材料費）

■定員 10名（定員を越えた場合は抽選）

■申込 7/1（木）～7/7（水）の間に電話で資料館（0133-62-3711）へ



## 7月～9月の講座・展示

体験講座

### 勾玉作り教室

7月  
開催

勾玉とは、古代の人々が石などで魔除け、装身具等として身につけていたものです。一番軟らかい石（滑石）で作りますので短時間で仕上がります。ボランティア「いしかり砂丘の風の会」スタッフがお手伝いします。

- 日時 7月31日（土）10:00～12:30
- 場所 いしかり砂丘の風資料館庭（屋外）
- 対象 小学生以上（低学年は保護者同伴）
- 定員 25人（先着順）
- 費用 500円（材料・保険料）
- 持ち物 天候に合わせた服装・大きめのレジ袋
- 申込 7/1（木）～7/22（木）の間に電話で資料館（0133-62-3711）へ



体験講座

### 化石のレプリカをつくる

8月  
開催

アンモナイトや石狩産の貝化石から型取りして、本物そっくりのレプリカ（複製）を作ります。ラベルを付けて展示したら、自分の部屋がミュージアムに！

- 日時 8月14日（土）13:00～17:00
- 場所 いしかり砂丘の風資料館
- 対象 小学4年生～大人
- 定員 10人（先着順）
- 費用 500円（材料費）
- 申込 7/17（土）～8/11（水）の間に電話で資料館（0133-62-3711）へ

体験講座

### フライドチキン骨格標本をつくる

フライドチキンの骨から、鳥の腕（翼）などの部分骨格標本を作ります。チキンから生命の歴史がわかる！

- 日時 9月4日（土）12:00～17:00
- 場所 いしかり砂丘の風資料館
- 対象 小学4年生～大人
- 定員 10人（先着順）
- 費用 無料
- 持ち物 フライドチキン（骨付き）1ピース
- 申込 8/1（日）～9/1（水）の間に電話で資料館（0133-62-3711）へ

9月  
開催

#### ■最近の「いしかり博物誌」（石狩市広報に連載中）

- ☞ 第107回：シャチの骨のつくりかた（10年5月号）
- ☞ 第108回：浜益区の摺鉢山（10年7月号）

#### 編集後記

当館のスタッフにはコハクに魅せられてしまった人が多いようです。もう1人コハクにハマっているのが、「コハクボランティア」として研究の手伝いをしてくれている山崎さん。これまでに石狩で採集されたコハクの計測とデータ解析をやってもらっています。結果がまとまったら報告しますので、お楽しみに！（け）

いしかり砂丘の風資料館

- 開館時間 午前9時30分～午後5時00分
- 休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
- 入館料 300円（中学生以下は無料）、団体料金240円（15名以上）
- 交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、「石狩温泉」下車、徒歩1分（石狩温泉「番屋の湯」となり）

エスチコアリ No.40

2010年7月5日発行

いしかり砂丘の風資料館  
〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4  
TEL/FAX: 0133-62-3711

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp  
<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>